

1 岐阜県立多治見病院の役割・機能

- 役割
岐阜県東濃・可茂地域における基幹病院として、救急医療、災害医療、周産期医療、医療連携等の拠点機能を担い、主に高度急性期・急性期を対象とする医療を提供しています。
○基本理念
『安全で、やさしく、あたたかい医療に努めます。』
○機能（主な機能指定等）
・救命救急センター
・災害拠点病院
・地域周産期母子医療センター
・地域がん診療連携拠点病院
・地域医療支援病院
・臨床研修病院（基幹型）
・第二種感染症指定医療機関
※このほか精神疾患、緩和ケアを対象とする病床を設置

2 岐阜県立多治見病院の現況

- 病院の敷地面積：38,848㎡
(病院北側敷地9,766㎡を含む)
○病院全体の総延床面積：55,038㎡
・中央診療棟13,143㎡、東病棟12,858㎡、中病棟・西病棟27,013㎡、MRI棟262㎡、高精度放射線治療棟789㎡、機械棟587㎡、その他385㎡
・駐車台数590台（敷地内職員駐車場を含む）
○病床数：627床（休床52を含む）
・一般562床
救命救急（ICU・HCU・CCU）20床
新生児治療（NICU・GCU）20床
緩和ケア20床
・結核13床、精神46床、感染症6床
○診療科：36科
7：1看護体制、DPCⅢ群病院（一般急性期）
○診療状況（平成27年度）
・外来患者数：平均1,191人/日
・入院患者数：平均469人/日
病床利用率81.6%（休床除く）
平均在院日数11.3日
新規入院患者数38.2人/日
・手術件数：7,481件
手術室4,969件
中央放射線部・内視鏡室2,512件
・放射線治療患者数：8,883人
・分娩件数：492件
○常勤職員数：819人（平成28年4月）
医師・歯科医師122人、看護部門489人、医療技術部門159人、事務部門49人
○経営状況（平成27年度）
医業収益：159.3億円、純利益：1.35億円、次期繰越金残高：82.2億円

3 新中央診療棟整備及び東病棟改修の必要性

- 現在の中央診療棟及び東病棟救急関連部門が老朽化・狭隘化しており、外来診療、高度急性期医療、周産期医療、災害医療等において十分な役割・機能を発揮することが困難になってきています。
○医療政策において医療機能の分化・連携が推進される中、こうした行政施策に適切に対応し、高度急性期・急性期の医療機能を早期に拡充する必要があります。

4 新中央診療棟整備及び東病棟改修の基本的な考え方

- 外来・放射線診断・手術部門等のある中央診療棟（昭和56年・59年建築）を病院南側駐車場敷地で建て替えるとともに、東病棟（平成2年建築）の救命救急・集中治療部門等に移設し、高度急性期・急性期医療での機能統合・効率化を図ります。
○東病棟を改修し、中央診療棟の事務管理部門等に移設するなどして活用します。
○高度先進性、利便・効率・安全性及び拡張性（変化への対応）の向上・拡充を基本として整備・改修を行います。

高度な医療技術と最先端の医療設備に対応した手術室の整備
手術室数：12室（4室増）
(ハイブリッド手術室・将来的にロボット手術が可能な大手術室を含む)
高度急性期医療機能が十分発揮できる救命救急センターの拡充整備
ICU8床・CCU3床・HCU9床（拡張整備が可能な構造）
周産期母子医療センターとして新生児治療の設備拡充
NICU9床・GCU11床（拡張整備が可能な構造）
地域がん診療連携拠点病院として化学療法センターの拡充整備
40床（20床増）
放射線装置更新・増設に対応でき、拡張性のある放射線診断部門の拡充整備
感染症対策にも十分配慮した内視鏡検査・治療部門の設備拡充
新中央診療棟への主要診療機能の集約化
検査予約センターの新設、ブロック受付方式の採用による外来診療の効率化
外来日帰りセンターを新設し、処置・注射及び日帰り手術後のリハビリを効率化
効率的で安全な救急搬送動線の整備
災害医療のためのトリアージ体制・スペースの整備
電子カルテシステムなど医療総合情報システムの拡充整備
患者・家族にわかりやすい動線・案内、エスカレーターの整備
ゆとりある外来、遮音を考慮した診察室・待合の整備による患者プライバシーへの配慮
患者総合支援センターの新設など、十分な相談室・面談室の配置
駐車場の立体化、コンビニ等の設備拡充
増大する在宅医療ニーズに対応する在宅医療支援センターの新設
がん緩和ケア患者・医療的ケア障害児等とその家族などのためのレスパイト入院を支援
災害拠点病院として、大規模地震にも対応する免震構造
浸水リスクに対応する建物構造及びエネルギー・機械設備配置
防災ヘリが発着可能なヘリポートの整備

I 高度先進的な医療機能の拡充

II 診療機能の効率性・安全性の向上

III 患者サービス・利便性・プライバシーの向上

IV 防災・浸水対策の強化

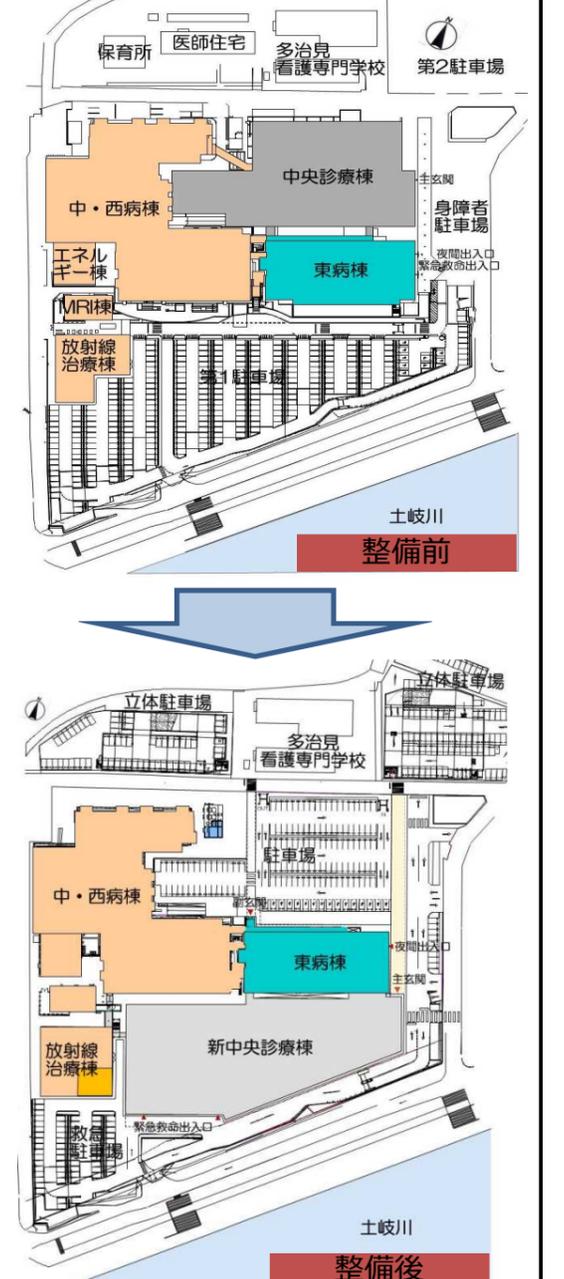
5 新中央診療棟整備・東病棟改修の概要

- 新中央診療棟の延床面積：23,000㎡
○新中央診療棟に配置する主な診療部門等
外来・救急外来、検査（検体・生理・病理、放射線、内視鏡）、手術、救命救急センター（ICU等）、新生児センター（仮称：NICU等）、小児・女性病床、整形外科病床、講堂、ヘリポート
○東病棟改修面積：約6,100㎡
○東病棟に移設する主な部門
化学療法センター、血液浄化センター、医療工学センター、医局関連・医事・事務管理部門等
○新中央診療棟整備にあわせて拡充・更新する医療機器・情報システム
ハイブリッド手術室、MRI、CT、PET-CT、電子カルテシステム等
○整備・改修後の病院の姿・目標
・病床数：575床（52床減）
・病院全体の延床面積：64,700㎡（約9,700㎡増）
・駐車台数：670台（立体385台・平面285台、80台増）
・手術件数：9,000件（約1.2倍）
・7：1看護体制、DPCⅡ群病院（高診療密度病院）

6 概算整備事業費等

- 新中央診療棟建築・東病棟改修費：概算118億円
新中央診療棟建築99億円、東病棟改修13億円、設計・調査・監理6億円
○立体駐車場・外構・解体撤去・移転等経費：概算12億円
立体駐車場整備・外構6億円、解体工事4億円、移転等2億円
○医療機器及び情報システム・ネットワークに関する整備費用：α億円（概算中）
○総事業費：130+α億円（財源は、病院資金・起債）
○整備手法：検討中
従来方式、DB（設計施工一括発注）方式、ECI（施工予定者技術協議）方式の中から選択予定
【新中央診療棟整備までの関連事業】
○高精度放射線治療装置増設整備
事業費11億円、平成30年4月運用開始予定
○血液浄化センター・医療工学センター整備
事業費2億円、平成29年4月運用開始予定、東病棟改修
○院内保育施設移転整備（整備計画検討中）
○病院アクセス道路拡幅整備（整備計画検討中）

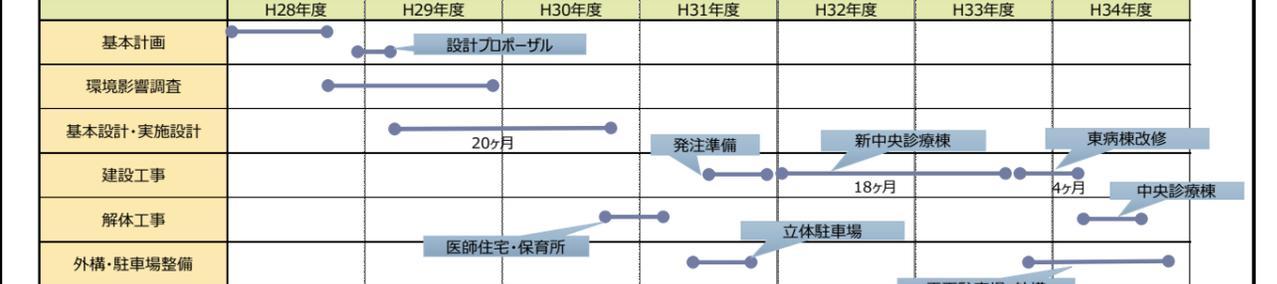
■全体配置図



■新中央診療棟・東病棟の各部門配置イメージ図

Table showing the floor plan layout of the new central ward building and east ward building. It lists departments and their locations across floors 1F to 6F. The new central ward building includes departments like NICU, GCU, and various clinics. The east ward building includes departments like ICU, CT, and laboratory. The west ward building includes departments like general ward, surgery, and radiology.

■スケジュール（従来方式の場合）



整備手法決定後に決定予定。